特色ある必修科目

塗田佳枝
附属坂戸高等学校教諭

本校の概要

附属坂戸高等学校は、昭和21年に近隣の1町5村による組合立実務学校・実習女学校として創立され、昭和28年に東京教育大学附属坂戸高等学校、昭和53年に筑波大学附属坂戸高等学校となった。当時の本校は農業科・機械科・家政科・生活科の4学科を擁し、国立大学附属高校としては珍しい職業教育の研究校であった。その後、学校改革に着手し、平成6年に公立6校とともに全国初の総合学科高校として新たなスタートを切る。

総合学科としての出発

平成15年、新学習指導要領の実施に伴って改編が行われ、大学進学を目指した「総合学科の進学校」を目標に掲げることとなった。その中でも大きな特色が系列改革であり、生物資源・環境科学系列、工学システム・情報科学系列、生活・人間科学系列、人文社会・コミュニケーション系列の4系列を新たに定めた。

一つの年次は4クラス160名で、1年次生はHR単位で必修科目を学ぶ。2年次生以降は、各系列の科目と系列に関わらず自由に選べる自由選択科目の割合が高くなる。3年次生になると、HR単位で学ぶ必修科目は保健体育の3単位しかない。しかし、それぞれの年次において、本校ならではの必修科目が設定されている。以下、各科目について紹介したい。

1年次「産業社会と人間・産業理解」

総合学科の原則必修科目である「産業社会と人間（以下『産社』）」に本校独自の「産業理解（以下『産理』）」を加えた科目であり、2年次の「起業基礎」とともに新教科「産業」を形成する。現在は木曜午後の3時間と夏休み中の実習を合わせて合計4単位で構成されている。

「産社」の学習目標は、人間の生き方・在り方を学び、様々な体験を通じて自らのライフプランを作成し、それを実現するための2年次以降の履修計画を立てることにある。それに対して「産理」は、社会構造の基本的な理解を目指すものであり、現代の産業構造や産業社会の諸課題を体験的に学ぶことが目標となっている。

具体的な学習活動を例としてあげると、「産社」では福祉体験、菜園づくり、系列ガイダンス、ライフプラン発表会、附属校であることを活かした附属桐が丘・大塚養護学校・盲学校等との交流会、筑波大学訪問などがある。一方「産理」では、多くの社会人講師の講義によって産業のあゆみや環境や福祉とのかかわりについて考える。また、コンピュータを解体し部品の製造国を自分の目で確認することを通じて産業構造を学んだり、情報化の功罪についてディベートを行ったりする。夏季休業中には職場体験や東京証券取引所・日本銀行の見学で、産業を多方面から立体的に理解する。そして、3月には1年間の成果を「産業社会と人間・意見発表会」で発表する。

2年次「起業基礎」

文部科学省の「平成15～17年度研究開発学校」の指定を受けて開発に取り組んでおり、週1度2時間連続で行う科目である。社会や雇用形態が変化する中、自ら仕事をつくり出し新しい方法を提案する、さらには事業を生み出し起業するような積極的な働き方が必要との考えから誕生した。

本年度の「起業基礎」で培いたい意欲・態度・能力・知識として、①問題発見力、②問題解決力・発想力、③企画立案力、④チャレンジ精神、⑤チームワーク、⑥マーケティングの知識、⑦プレゼンテーション力の7点が示されている。これらからわかるように、「起業基礎」は起業家を育成するための教育でなく、あらゆる職場・立場で発揮できる「起業家精神」を育成する教育である。すなわち、自らの人生を自らの手で切り開いて行くという強い情熱を持ち、リスクを恐れず自分の夢に向かってチャレンジする心の育成を目指している。

具体的には、前期は黎明祭（文化祭）、後期は社会という二つの場で起業活動を行う。前者はクラス単位で文化祭の枠を出ない活動である。それに対して、後者は興味を同じくする者がグループを作って活動する。11月には起業アイデア発表会がポスターセッション形式で行われ、約20のグループがそれぞれの企画を発表した。実際には、本校の生徒や教員を対象にした企画が多いが、地元の商工会が主催するイベントに参加を希望しているグループもある。今後は「つくさか法務局」による起業登録、「起業

基礎銀行」での融資申請を経て、起業活動に移る。その成果は、2月の本校研究大会でも示されることであろう。

3年次「卒業研究」

昨年までは「総合的な学習の時間」の中で「課題研究」として行われていたが、新課程の本年度3年次生からは、「卒業研究」の名称で必修科目として位置づけられるようになった。2単位の科目であるが、総合的な学習の時間等も合わせると、1学期は週に5時間、2学期は3時間を充てた。生徒たちは2年次3学期のテーマ構想から、ゼミ形式の中間発表会、系列ごとの最終発表会を経て、3年次11月のレポート提出まで、自らの興味・関心に基づき研究活動を行う。最近はその研究を用いて、大学のAO入試に合格する者も増えている。

参考までに、昨年度の年次代表として研究大会で発表した生徒のテーマを以下に示す。詳細は、本校HPを参照されたい。

1. アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの思想
2. 重イオンビーム照射によるアサガオの突然変異誘発－M2変化アサガオの遺伝子解析－
3. 集団での食事療法と一般家庭の食事の相違
4. 「躍動感のある四足走行ロボット」の研究及び開発
5. 地球温暖化防止のために有効な経済的手法とは－経営者と自然環境問題－
6. 衣の自給－綿作りを通じて日本の衣料のあり方を探る－

上記の教科「産業」の科目とは性格を異にするかもしれないが、本校での学びの集大成として、また自らの進路意識を明確化する意味で、大きな役割を果たす科目である。

おわりに

現在、フリーターやニートの増加にともない、キャリア教育の重要性が増してきている。このような状況下で本校の必修科目が資するところは大きい。私は公立普通科高校から異動して2年目だが、本校は活気にあふれた生徒が多いと感じる。それは、生徒自身がやりたいことを見つけ、積極的に取り組んでいるからではないか。そして、その生徒たちを後押ししているのが今回紹介した科目を初めとする総合学科の科目なのではないか。

もちろん専門外の科目を実践し、時にはつくり上げていく形態に戸惑うことも少なくない。しかし、生徒・教員が共に新しい授業を創造していく可能性が、総合学科にはあると思う。

（ぬりた　よしえ／国語科）